

敏腕シェフで高工賃

就労支援B型
オリブの小路「多様性も尊重」

仙台市

2019年5月にオープンした就労継続支援B型事業所「ノキシタカフェ・オリブの小路」(仙台市)が高工賃を実現している。店長のヒデキさん(47)のこだわりスープカレーが大人気で、ランチタイムは特に女性客で賑わう。

10代後半から料理一筋32年のヒデキさんは洋食が専門。文字の読み書きが苦手な障害があるが、店長として働く。精神障害、知的障害のある利用者がもっと稼げるように、との思いが誰よりも強い。

その甲斐あって、平均工賃は月額3万円台。全国平均(1万6369円)の約2倍だ。安定して働く利用者は8万円を超える。

だからと言って、利用者は稼ぐ力のある人ばかりではなく、個性派ぞろいだ。アルコール依存症のHI



盛り付け方にも細かいチェックが入る

ROさん(51)は入院歴2回。今も休み休みカフェに通う。引きこもり歴6年のヨシキさん(28)は「なぜ通えるようになったか、自己引き」と紹介するシユン

イチさん(58)はうつ病の経験者。苦しい時に友人や仕事仲間が離れていく怖さを味わった。

16年前に菊地さんと出会い、入退院を繰り返しても縁が切れなかった。「退院する時、帰る場所がシャロームの会。家族のように私を気にかけてくれる」と振り返る。

「いろいろな人がいて当然」と話す菊地さん。カフェの向かいには災害公営住宅があり、母子世帯、ひとり暮らし高齢者が少なくない。すると、カフェで月1回の「こどもレストラン」を始めた。

就労B型は21年度から障害報酬の体系が二つに分かれる見込み。より高い工賃を目指すか、通いやすい雰囲気づくりを重視するか。事業所はどちらかを選ぶことになる。

シャロームの会の合言葉は「どんな時も、あなたはそのまま素晴らしい」。菊地さんは「報酬体系の二択には戸惑いを覚える。多様性を尊重する理念は、どちらの報酬体系を選ぼうとも変えない」と力を込める。

(福田敏克)